

施工業者様へ


施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡してください。

安全上のご注意

- ここに示した **警告** は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した **注意** は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です

この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

**警告**

湯水を逆に配管しないでください。

禁止

水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。

給湯に蒸気を使用しないでください。

禁止

器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。

給湯温度は85℃より高温で使用しないでください。

禁止

85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯パイプ含む)には絶対に通電しないでください。

禁止

通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。


加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。

禁止

器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

他所の水栓の使用等により水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。

やけどのおそれがありますので、やけどをのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

**注意**

器具に強い力や衝撃を与えないでください。

禁止

器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

めっき部品は、ぶついたり落としたりしないでください。また、鋭利な物や硬い物を当てないでください。

禁止

めっきの表面が割れて、けがをするおそれがあります。万一めっきの表面が割れた場合は、ただちに新しい部品に交換してください。

配管接続部をテーパねじに接続しないでください。

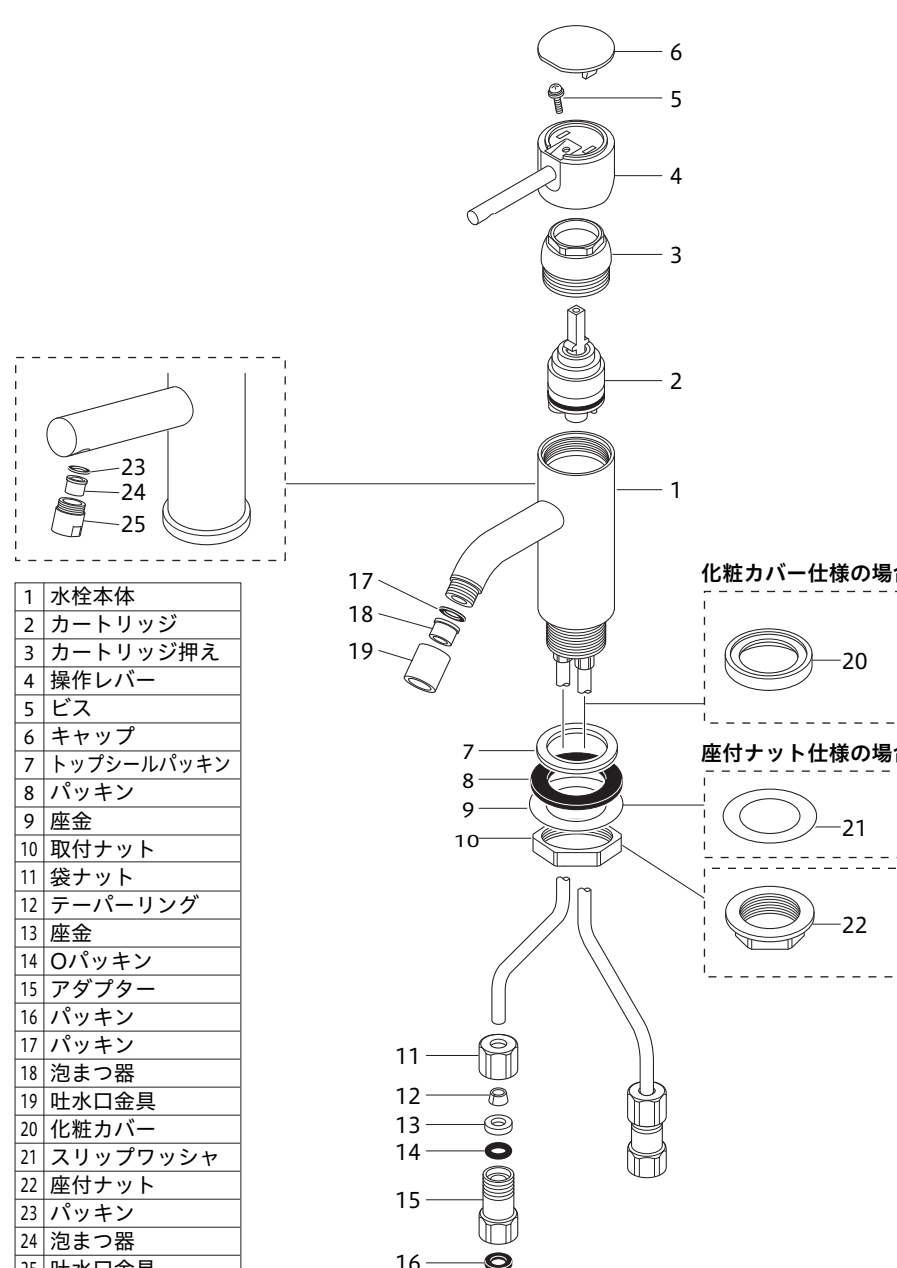
禁止

テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

分解図

この分解図は製品説明図であり、サービス部品の単位を示すものではありません。

部品の形状は仕様によって異なる場合があります。



1 水栓本体

2 カートリッジ

3 カートリッジ押え

4 操作レバー

5 ビス

6 キャップ

7 トップシールパッキン

8 パッキン

9 座金

10 取付ナット

11 袋ナット

12 テーパーリング

13 座金

14 Oパッキン

15 アダプター

16 パッキン

17 パッキン

18 泡まつ器

19 吐水口金具

20 化粧カバー

21 スリップワッシャ

22 座付ナット

23 パッキン

24 泡まつ器

25 吐水口金具


化粧カバー仕様の場合

20

座付ナット仕様の場合

21

22

**注意**

小型電気温水器(即湯器)等に給湯ホースを接続する際は、ステンフレキ管等を介してください。

高温の熱により給湯ホースの寿命が短くなり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

止水栓取り付け箇所や給水・給湯管との接続箇所は、点検口を設けるなど点検しやすい状態にしてください。

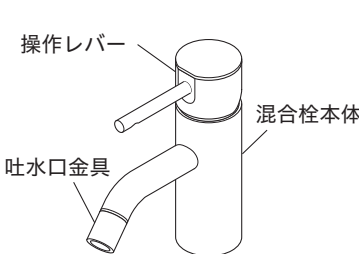
点検ができないと万一漏水発生時には発見が遅れて家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

凍結が予想される際は、一般地仕様をお使いの場合、少量の水を出しておくか、配管に布を巻くなどして、凍結を防止してください。
寒冷地仕様をお使いの場合は配管の水抜き操作と水栓金具の水抜き操作を行ってください。

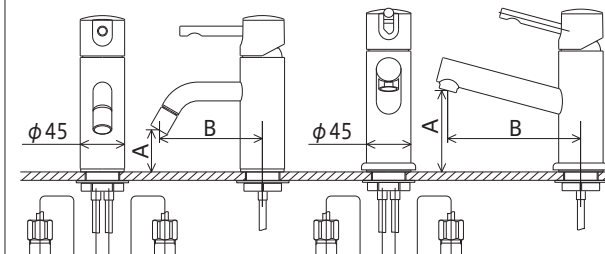
水抜きしないとし凍結破損で漏水し、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

取り付け完成図と各部の名称／寸法図

取り付け完成図と各部の名称



寸法図 仕様により各部寸法が異なる場合があります。



仕 様	A寸法	B寸法	取り付け穴径
LFM612 取付ナット仕様	40	105	φ24～φ25
	43	103	φ35～φ38
	64	116	φ35～φ38
LFM612 座付ナット仕様	164	116	φ36～φ38
	191	135	φ36～φ38
LFM612MI	45	104	φ35～φ38
LFM612MI1	92	135	φ35～φ38

取り付け前に

- ① 使用水圧(A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失))
(1)瞬間給湯器との組み合わせ(設定条件 水温:25℃ 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42℃ ハンドル全開)
(比例制御式)最低必要水圧:A+0.10MPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
(2)貯湯式給湯器との組み合わせ
(給湯・給水圧力)最低必要水圧:A+80.0KPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
- ② 操作レバーは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くするか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60℃給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

取り付け手順 1

1 給水管内の清掃

配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。

2 止水栓(別売)の取り付け

給湯管と給水管の間隔は100mm程度で取り付けます。
水受けタンク又はトレーを設置する場合は、水受けタンク又はトレーの寸法をご確認の上取り付けください。
止水栓はストレーナ付が最適です。
寒冷地用は水抜き栓付止水栓を取り付けてください。

ストレーナ付
止水栓

水抜き栓付
止水栓

(100mm)

止水栓
(別売)

(100mm)

3 混合栓本体の仮固定

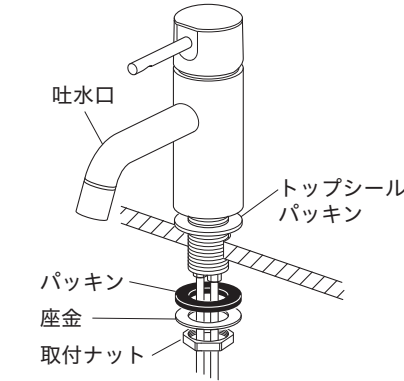
取付ナットタイプの場合

① ネジ部から取付ナット類を取りはずし(トップシールパッキンははずさない)、カウンターの穴に吐水口を正面にして本体を差し込んでください。

② パッキン類を右図の順にネジ部に差し込み、取付ナットを奥まで締め付けて仮固定してください。

【△注意】

・混合栓本体を手でしっかりと保持してください。
操作レバーを持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。



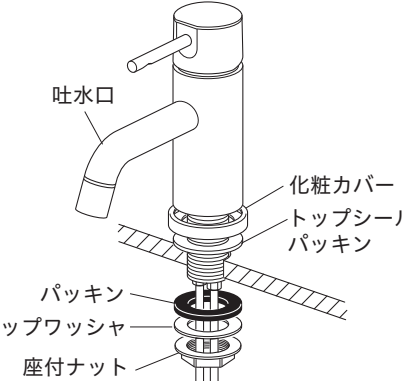
座付ナットタイプの場合

① ネジ部から座付ナット類を取りはずし(化粧カバー・トップシールパッキンははずさない)、カウンターの穴に吐水口を正面にして本体を差し込んでください。

② パッキン類を右図の順にネジ部に差し込み、座付ナットを奥まで締め付けて仮固定してください。

【△注意】

・混合栓本体を手でしっかりと保持してください。
操作レバーを持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。



4-1

給水・給湯パイプの接続

① 止水栓と接続した場合、図1のように垂直部分が長くなるように取り付けます。

【△注意】

- ・図2のような無理な配管はしないでください。配管の抜けや亀裂や破損の原因となり、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ・給水・給湯配管は動かないように固定してください。給水・給湯パイプが抜け、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

② アダプターを止水栓に仮固定した後、給水・給湯パイプの必要な長さを測り、切断してください。このとき、パイプの差し込み代25mm確保してください。

【お願い】
給水・給湯パイプの切断はパイプカッターをご使用ください。

③ 給水・給湯パイプに袋ナット、テーパリング、座金、Oパッキンを順に入れて差し込みます。

【△注意】

- ・部品をはずして給水・給湯パイプにはめ込んでください。部品をはずさない状態で給水・給湯パイプをアダプターにはめ込むと、パッキンが切れ漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ・部品は正しくはめ込んでください。特にOパッキンがねじれた状態でと、漏水のおそれがあります。

④ アダプターを給水・給湯パイプにはめ込んでから止水栓と接続します。

【△注意】

- ・接続は六角ナット部を適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。
- ・薄肉の接続管(ニップル等)には、逆止弁ジョイントを接続しないでください。パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。
- ・止水栓がしっかり固定されていることを確認してください。固定されていないと給水・給湯パイプが抜け、漏水の原因になります。

図1

図2

給水・給湯パイプ 止水栓

給水・給湯パイプ 止水栓

給水・給湯パイプの差し込み代

給水・給湯パイプ 差し込み代 25mm 確保

アダプター 止水栓 (別売)

給水・給湯パイプ 止水栓 (別売)

給水・給湯パイプ

袋ナット

テーパリング

座金

Oパッキン

アダプター

止水栓 (別売)

給水・給湯パイプ

アダプター

パッキン

1. はめ込む

2. 接続

スパナ等

4-2

⑤ ③で仮固定していた本体を、工具で確実に締め付けます。

【△注意】

- ・本体を手でしっかりと保持してください。操作レバーを持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますのでこれらは持たないでください。
- ・取付ナットの締め付けは、専用工具KPS953(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
- ・座付ナットの締め付けは、専用工具KPS955(別売)で確実に行ってください。しっかり締め付けられていないと、本体が緩んだり、ガタツキが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

⑥ アダプターが共回りしないように、別スパナで六角ナット部を固定しながら袋ナットを締め付け、給水・給湯パイプとアダプターを接続します。

【△注意】
接続は適切な工具（スパナ等）で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N・cmです。締め付け不足や締め付け過ぎますと、漏水の原因となります。

専用工具 KPS953 (別売)

専用工具 KPS955 (別売)

六角ナット部

袋ナット

スパナ等

別スパナで固定

締め付ける

取り付け後の点検と清掃

通水確認

【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5～6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

泡まつ器清掃のお願い

吐水口の泡まつ器にゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

① 湯水全開で20～30秒吐水させます。

② 吐水口金具をはずして泡まつ器を取り出します。

③ 泡まつ器をブラシで水洗いします。

吐水口

吐水口

パッキン

泡まつ器

吐水口金具

② はずす

パッキン

泡まつ器

吐水口金具

② はずす

歯ブラシなど

③ 清掃

泡まつ器

清掃後は、はずした逆の手順で組み立ててください。

湯温・流量調節

操作レバーが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。

操作レバー

上いっぱい上げて適量

正面の位置で適温

湯側止水弁

あける

しめる

止水栓(別売)

水側止水弁

あける

しめる

故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前に下記の表に従ってもう一度お確かめください。

現 象	お調べいただくところ	処 置	参照ページ及び項目
吐水量が少ない	止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ 「湯温・流量調節」
	泡まつ器にゴミ等がつまっていませんか	泡まつ器を清掃する	7ページ 「泡まつ器清掃のお願い」
	ガス給湯器と組合せてご使用の場合、能力切換式のものでは適正能力にセットされていますか	ガス給湯器の能力を適正能力にセットする	—
	泡まつ器は凍っていませんか	泡まつ器にぬるま湯をかける	—
高温しか出ない	水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ 「湯温・流量調節」
低温しか出ない	湯側止水弁は十分に開いていますか	止水弁を開ける	7ページ 「湯温・流量調節」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
温度調節がうまくできない	湯側・水側止水弁は十分に開いていますか	止水弁で流量を調節する	7ページ 「湯温・流量調節」
	給湯器から十分な湯がきていますか	給湯器の設定温度・作動を確認する	—
吐水が飛び散る	泡まつ器にゴミ等がつまっていませんか	泡まつ器を清掃する	7ページ 「泡まつ器清掃のお願い」
	泡まつ器にゴミ等がつまっていませんか	泡まつ器を清掃する	7ページ 「泡まつ器清掃のお願い」

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

【△注意】・修理技術者以外の方は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。水栓本体内部のメンテナンスは、取付店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

・メンテナンスは、しっかりと本体を保持しながら行ってください。操作レバーをもってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますので、これらは持たないでください。